



部族民通信
Youtube人類学
講座

2024年10月～
2025年7月



ヘーゲル 精神現象学
La Phénoménologie de
l'Esprit Hyppolite 訳

仏語翻訳版から
解く絶対知の追求 2_2

限定否定が弁証法の基盤

部族民通信Youtube人類学講座
2024年10月~25年7月 投稿2

部族民通信 2024年10月

参考スライド
精神現象学前々
回

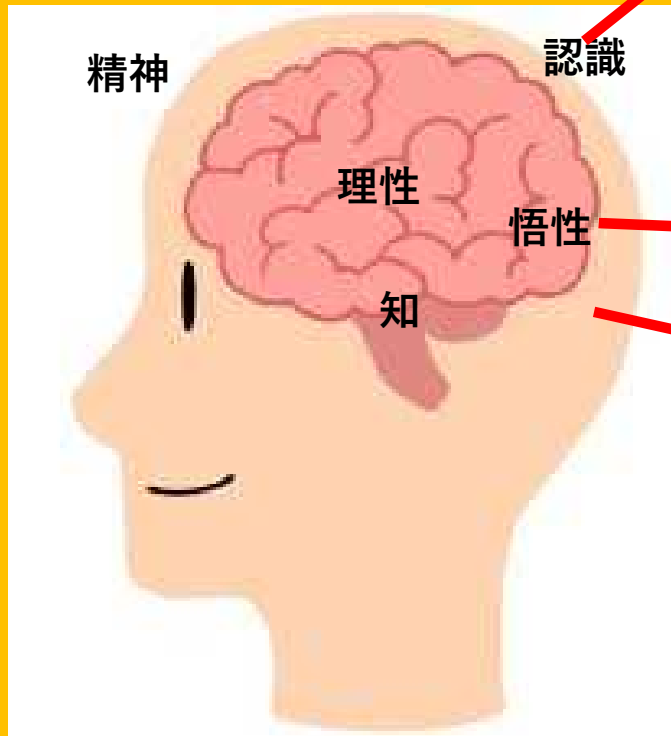
まとめ 2

2-1 精神を構成する要素（4の鍵語）の定義
性状の解説

2-2 弁証法の活動、現象と真理
作用反作用、統合の仕組み

本書では上の2点のみが記述される

現象の野、節目、
見比べ



現象の野

モノの現象 (対象) と
悟性の現象 (基準) 見比べ

現象の悟性

己の持つ
モノの概念

社会の概念
歴史の概念
存在の概念



悟性が現象野に進出

知はモノを概念化

知がモノに接近

実在の世界
モノ、
真理

社会
歴史
存在

弁証法

節目 1

節目 2

....

....

最終

自然の悟性

否定する悟性

絶対知

悟性の形状は段階 (節目) 毎に変化

参考スライド
精神現象学前文、
1及び1_2に掲載

ヘーゲル精神現象学 絶対知の追求

外部・宇宙は存在・実質であり真実を具有する知 (Savoir) は存在 (対象Objetの概念) を認識に籠絡し、悟性がそれを観察 (Examen) する。悟性は認識の中から真実を求め

しかし真実を探れない
なぜなら自己に取り入れた対象には「知る」の工程が加わっている
疑似の真実 (概念) を検査することとなる

悟性と対象の対峙は経験Expérience = Dialectique弁証法を経て
次の段階に移り、経験の繰り返し

いずれ絶対知をモノにできよう

頭の図はネットから拝借

部族民通信2024/08/30

精神現象の動き2の様態

1精神に現象の野が広がる 上

2現象は道具として動く 下

ヘーゲル精神現象学 絶対知の追求

現象の野、節目、見比べ

モノの現象 (対象) と悟性の現象 (基準) 見比べ

現象の悟性 己の持つモノの概念

社会的概念 歴史の概念 存在の概念

悟性が現象野に進出

知はモノを概念化

知がモノに接近

弁証法

節目 1	節目 2	最終
自然の悟性	否定する悟性			絶対知

悟性の形状は段階 (節目) 毎に変化

部族民通信2024/10/15

参考スライド
精神現象学前文、
1及び1_2に掲載

ヘーゲル精神現象学 絶対知の追求

外部 存在・実質・歴史・宇宙・社会 Etc...

知

認識

悟性 理性

精神 Esprit

外部・宇宙は存在・実質であり真実を具有する知 (Savoir) は存在 (対象Objetの概念) を認識 に籠絡し、悟性がそれを観察 (Examen) する。悟性は認識の中から真実を求め

しかし真実を探れない
なぜなら自己に取り入れた対象には「知る」の工程が加わっている
疑似の真実 (概念) を検査することとなる

悟性と対象の対峙は経験Expérience = Dialectique弁証法を経て
次の段階に移り、経験の繰り返し

いずれ絶対知をモノにできよう

頭の図はネットから拝借

部族民通信2024/08/30

精神現象の動き2の様態

1精神に現象の野が広がる 上

2現象は道具として動く 下

現象の影として現象の野に映り、弁証法の実効的実際の道のりで働く

ヘーゲル精神現象学 絶対知の追求

現象の野、節目、見比べ

精神

理性

悟性

知

現象の野

モノの現象 (対象) と悟性の現象 (基準) 見比べ

現象の悟性 己の持つモノの概念

社会の概念 歴史の概念 存在の概念

悟性が現象野に進出

知がモノに接近

知はモノを概念化

弁証法

節目1 節目2 最終

自然の悟性 否定する悟性 絶対知

社会 歴史 存在

实在の世界モノ、真理

悟性の形状は段階 (節目) 毎に変化

部族民通信2024/10/15

« Le système complet des formes de la conscience non réelle résultera de la nécessité du processus et de la connexion même de ces formes. Pour rendre cela concevable, on peut remarquer en général, à titre préliminaire, que la présentation de la conscience non-vraie dans sa non-vérité n'est pas un mouvement seulement négatif, comme elle est selon la manière de voir unilatérale de la conscience naturelle » (同)

« Le système complet des formes de la conscience non réelle résultera de la nécessité du processus et de la connexion même de ces formes. Pour rendre cela concevable, on peut remarquer en général, à titre préliminaire, que la présentation de la conscience non-vraie dans sa non-vérité n'est pas un mouvement seulement négatif, comme elle est selon la manière de voir unilatérale de la conscience naturelle » (同)

非実際である悟性の形状が、変遷しながら完結する体系は、これら形状が相互に関連を持ちつつ連動する必要性に起因する。これを理解するためには前もって、全体として、非真理の環境のもと、非実在の悟性の表現は単に否定反応を採るのみならず、あたかも自然（本来）の悟性として一方向性に向かう動きを現している。

部族民：「形を変える」は（弁証法節目毎に悟性は基準を変える）前頁の注釈で既述。「完結体系」（système complet）とは前文節で、懐疑主義Scepticisme（あるいはデカルト的疑い）は方向性完結性を持たない、ヘーゲル弁証法では疑い（否定）が方向性を持つから、真理に到達する完結性を残す。

その完結性とは方向性あるいは意思である、それはどこから発するのか。《la conscience naturelle》の自然naturelleに注目したい。悟性には非実際 non réelle, non-vraieの形容を前文で採っている。現象であるから非実際。

しかしその後「あたかも自然のごとく」が続く。この自然とは現象に入る前の悟性で、精神の中で実際であった。考えるとは現象の野に入り、基準と概念を見比べるが、現象での悟性は非実在、しかしそこに悟性が生まれ持った目的性が認められる、

非実在であるが《effectivement réel》実効的に実際（前引用）の意味合いが効いてくる。

« Le scepticisme, qui finit avec l'abstraction du néant ou avec le vide, ne peut pas aller plus loin, mais il doit attendre jusqu'à ce que quelque chose de nouveau se présente à lui pour le jeter dans le même abîme vide.

Si, au contraire, le résultat est appréhendé, comme il est en vérité, c'est-à-dire comme négation déterminée, alors immédiatement une nouvelle forme naît, et dans la négation est effectuée la transition par laquelle a lieu le processus spontané se réalisant à travers la série complète des figures de la conscience* » (71頁)

« Le scepticisme, qui finit avec l'abstraction du néant ou avec le vide, ne peut pas aller plus loin, mais il doit attendre jusqu'à ce que quelque chose de nouveau se présente à lui pour le jeter dans le même abîme vide. Si, au contraire, le résultat est appréhendé, comme il est en vérité, c'est-à-dire comme négation déterminée, alors immédiatement une nouvelle forme naît, et dans la négation est effectuée la transition par laquelle a lieu le processus spontané se réalisant à travers la série complète des figures de la conscience* » (71頁)

懐疑主義と比較しよう。それは無いし空虚の抽象観念で終結し、それを超える進展はない。新たな某かが出現し、己を再び虚無に放り投げてくれと待つのみ。懐疑主義に未来は残されない。その動きと真逆を考えてみよう、(前段階の)結果は(後段階に)、あたかも真理であるかに受け入れられる。その意味合いとは限定否定 négation déterminée で、何かがすぐさま新しく生まれる。「限定否定」が節目 moment の更新を生み、自発的取り決めが、悟性の姿の流れを完結に導く。そしてこの否定の中に進展が活性化する。その進展とは、自発行動であり悟性の形状移転の完結目指すところである。

一般否定への批判

Hyppolite : *Hegel insiste particulièrement sur ce caractère de la négation qui est toujours négation déterminée et qui par conséquent n'est pas isolable du contenu nié. ヘーゲルはこの否定の性格を強く主張する、限定の否定。否定した内実を否定と切り離さない。

部族民：Hyppoliteはヘーゲル一世代前の哲学者、Schulzeの懐疑主義と弁証法を比較している。（Schulze1761-1833フィヒテや新カント学派に影響を与えた。全面否定の説か。部族民は彼を語れない、ヘーゲルに戻る）

弁証法の否定とは、一旦はそれ対象の概念を「真理か」と仮定して検査（examen）、悟性が抱える基準measureと見比べ、必ず両者は異なるから、否定する。この過程をexpérience経験と呼ぶ。

機械的、無省察な（何でもかんでも）否定するとヘーゲル弁証法を決めつけるのは誤り。

Schulze1761-1833ネットから

部族民：ここで否定はなぜ「必然」を省察したい。

検査examenは取り込まれた対象の概念を、悟性が（精神の）基準と比較する過程なのだが、両者ともに現象として出現している、実際 (réel) ではない。

観念内のあやふやな2の基準が合致することは、そもそも実質を持たないのだから、絶対に、ない。

標準原器を持たずして見比べているだけ。

たとえ同一と見えても、それだから合致とはいかない。故に、悟性は「必ず」否定を選択する。

部族民：ここで否定はなぜ「必然」を省察したい。検査examenは取り込まれた対象の性状を、悟性が（精神の）基準と比較する過程なのだが、両者ともに現象として出現している、実際 (réel) ではない。観念内のあやふやな2の基準が合致することは、そもそも実質を持たないのだから、絶対に、ない。標準原器を持たずして見比べているだけ。たとえ同一と見えても、それだから合致とはいかない。故に、悟性は「必ず」否定を選択する。

その際に「対象objetよ、キミが抱える概念は真理に、これこれが一歩たりない」一定の基準を預け、対象とのつながりを残す。これが限定否定、これらの流れをHyppoliteは「toujours（常に）否定」と軽く教える。

精神活動を発展させ非実際non-réelの悟性が、réel = 実際の存在、真理、絶対知savoir absolu にヒトが近づく。その可能性を与えてくれるのが「目的追求の方向性、前を引き継ぎ後に与える連続性、経験の時空を決められる自発性」弁証法です。ヘーゲル弁証法にヒト思考が潜むのだから伺える一節である。

部族民：ここで否定はなぜ「必然」なのかを省察したい。検査examenは取り込まれた対象性状を、（精神の）基準と比較する過程なのだが、両者ともに現象として活動している、実際 (réel) ではない。観念内のあやふやな2の基準が合致することは、そもそも実質を持たないのだから、絶対に、ない。たとえ同一と見えても、それだから合致とはいかない。標準原器を持たずして見比べているだけ。故に、悟性は「必ず」否定を選択する。その際に「対象objetよ、キミが抱える概念は真理に、これこれが一歩たりない」一定の基準を預け、対象とのつながりを残す。これが限定否定、これらの流れをHyppoliteは「toujours（常に）否定」と軽く教える。

精神活動を発展させ非実際non-réelの悟性が、réel=実際の存在、真理、絶対知savoir absolu ヒトが近づく。その可能性を与えてくれるのが「目的追求の方向性、前を引き継ぎ後に与える連続性、経験の時空を決められる自発性」弁証法です。ヘーゲル弁証法にヒト思考が潜むのだから一節である。

Hyppoliteはこの点：

Dialectique de l'inquiétude humaine qui est peut-être une des intuitions fondamentales de l'hégélianisme. 不安に起源を求めるヘーゲル主義弁証法は、ヒト直感の根源から発生しているといえる。

この直感は理性の直感です。

部族民：本文中に散見される「不安、恐れ、疑い」などの心象表現を目にしても、それらを感情のほつれと解いてはならない。根拠は恐れオソレの解釈にあります。絶対、それは災害、疾患、寿命などか、を前にして無力な個の心構え（envisager）と理解する（前出）。

この派生となる不安疑いも、絶対を目前にする個の、感情とは切り離される、精神のどよめきと解釈する。Hyppoliteが語る直感も感覚の即座発露とは異なり、精神の閃きと理解したい。ちなみに本引用の« inquiétude » 不安は« état d'instabilité d'esprit » 精神の不安定が哲学意義となる（Robertから）

Hyppolite訳、ヘーゲル精神現象学の紹介 5 了 （Blog投稿は9月4日）

悟性に内なる衝撃 (impulsion)

現象の野に入る

オソレ (crainte) を抱く

節目 (moment) を迎える

限定否定 (négation déterminée)

悟性が形状を変える (figures)

再び節目

実効的実際の道のり

自然の悟性 (conscience naturelle)は律自覚自
自身は基準をもつも真理がない、それは外部と知る。
非実際となった現象の悟性、しかし本来の理性を保つ

絶対真理に対峙するオソレ、無力者の震え

多くを真理とする、真理を悟ったとする誤謬

悟性の基準vs対象の概念。非実在同士の見比べ

必ず否定

しかし限定否定、次段階へのつながりを担保する

Négation déterminée

悟性は基準を変える。

これらを経験(expérience)とする、弁証法の言い換え

Chemin effectivement réel



ヘーゲル 精神現象学
La Phénoménologie de
l'Esprit Hyppolite 訳

仏語翻訳版から
解く絶対知の追求 2_2
了
限定否定が弁証法の基盤

部族民通信Youtube人類学講座
2024年10月~25年7月 投稿2

部族民通信 2024年10月